

夢よひろがれ

もっと

4 2020
月号

vol.202

発行・編集
いぶきファミリー
(旧いぶき福祉会後援会)

☎502-0907
岐阜市島新町5番9号
TEL.058-233-7445
FAX.058-232-9140
ibuki.m@ibuki-komado.com

2020年4月、
いぶきには333人の
かけがえのない
仲間と職員がいます。

いぶき福祉会のテーマソング「夢よひろがれ」
毎年新緑が深みを増す頃、校庭に集いこの歌を歌
い続けてきました。

今年はそれもありませんが、大好きなこの街に、
これまで以上に、たくさん笑顔をばらまきます。
今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

“夢よひろがれ”

1

この街が好きだからここで暮らしたい
私たちにもできる何かがきっとあるはず
花のように 鳥のように
いのちのうたを歌いたい
夢よひろがれ 夢よひろがれ
風のように

2

あなたに出会うために生まれてきたの
私たちだから伝えられることきっとあるはず
月のように 星のように
小さな光放ちたい
夢よひろがれ 夢よひろがれ
空高く 空高く

Makiko Sawada

もくじ

2-3

新パストラル完成・職員談話

4-5

成人・還暦を祝う会報告

6

ミナモのまちづくりラボを終えて

7

連載:心のバリアフリーナビゲーター
恩田聖敬が愛を語る

8-9

福祉のお仕事

10-11

仲間のすがた・仲間の入社式

12

新商品紹介:武将かりんとう

13

ホームページリニューアル

14

新人職員紹介

15-16

情報掲示板
4コマまんが・編集後記



パストラル新棟の 生活がはじまりました。

たくさんの夢がつまったパストラル2期工事が全て完了し、2月末に引き渡しを受けました。仲間10人の暮らしとショートステイ、災害時の避難スペースが完成し、建物に足を踏み入ると新築の匂いが今後の楽しいわくわくした生活を引き立てる気がします。4月に入って入居者の引っ越しがはじまり、新しい生活がはじまるとともに防災への備えなどもすすめていく予定です。

既にお知らせした通り、新型コロナウイルスの感染予防のため、竣工式・内覧会は延期させていただきました。改めての開催や今後の進捗はホームページやフェイスブック、メールマガジンでご案内させていただきます。

暮らしの様子についてもお届けしたいと思っていますので是非ご覧ください。



ご支援いただいた方のお名前を記載したボードは、おおきな木をイメージして防災拠点の壁に設置しました。



感謝

皆様がお寄せくださった
ご厚意に心よりお礼申し上げます。
1,935人からいただいた24,732,137円もの
ご寄付と、あふれるほどのエールを忘れません。
私たちは皆様とともに、誰もが安心と希望を
もって暮らせる寛容な社会を
創ってまいります。
いびき福祉会・いびきファミリー 一同
2020年3月



今年度、パストラルいぶきを
担当するリーダーの
藤澤亮太さんと藤井美和さんに
お話を聞きました。



Q:パストラル新棟が完成した感想は？

藤澤: 自分自身、秋ごろから建設工程に関わってきました。入居される仲間をイメージしながら、みんなが心地よく暮らせるようにと考えてきたので、完成したときは素直に達成感を感じました。

また、今回も多くの方々からご支援をいただいて建てることができたので、今後も感謝を忘れずに仲間の暮らしを支えていきたいです。

藤井: ホットしたというのが一番。いろんな人の協力があつたことがわかるだけに、無事に完成してよかったという気持ちです。そして、その期待に応えなければという良い意味でのプレッシャーが、今はあります。

Q:入居する仲間は どう感じていますか？



藤澤: 仲間によって4月から新たな環境で、不安や期待が入り混じりながら、楽しみにしている仲間もいれば、なんとなく不安いっぱいの仲間もいると思います。また、なかなか実感が湧かず生活がスタートしてから、これからここで暮らすんだと感じる仲間など様々だと思います。

藤井: 今度新しく入居する仲間のほとんどは言葉が話せないから、本当のところの気持ちはわからないですね。説明したり、場所を確認したり…でも、

何かを感じていて(伝わっていて)いつもとは違う様子がみられています。それが、不安なのか、期待なのか？でも、どちらにしても、新しいことをスタートするということは勇気のいること。一緒に前に進んでいきたいです。

Q:大切にしたいことを教えてください。

藤澤: 職員がおぜん立て、提供する暮らしではなく、仲間が自分でつくる、自分らしい暮らしを目指して支援していきたいです。そのために自分で選択、決めることを大切にしていきたいです。しかし、自分で決めることが逆にストレスになる仲間もいると思います。そういう場合は、仲間がどんな思いでいるかを受け取り、思いに寄り添いサポートすることも大切にしていきたいです。

藤井: グループホームは生活の場であるからこそ、家庭を感じられるようにしたいです。家族ではないけれど、家族といるように安心できるように…、お母さんが家でしているように、例えば洗濯物をたたみながら「今日はお仕事どうだった？」なんて話を聞いたり、朝は気持ちよく目が覚めるように、みそ汁の香りがする頃に起こしたり、眠れない日には一緒に温かいお茶を飲んでみたり…そんな何気ない暮らしのひとコマひとコマを大切にしていきたいです。



これからの様子やいぶきからのお知らせ

① いぶき福祉会ホームページ「いぶきの小窓」 ⇒ <http://www.ibuki-komado.com/>

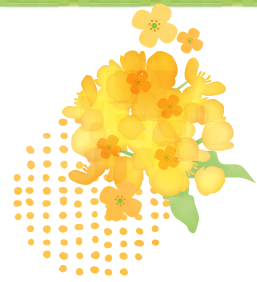
② いぶき福祉会 Facebook ページ「いぶきの小窓」 ⇒ <https://www.facebook.com/ibukinokomado/>

③ いぶき福祉会メールマガジン登録 ⇒ ibuki.m@ibuki-komado.com までご連絡ください。折り返し登録先をお知らせいたします。



いぶき

成人・還暦を祝う会



新成人:小森 結さん 還暦:竹内 美智子さん
こもり ゆい たけうち みちこ

いぶきゆめひろ 谷山 静菜



大勢の関係者の祝福をうけて、少し緊張した様子のおふたり。

成人・還暦を祝う会が1月18日に行われました。今年度は、ゆめひろの小森結さんが新成人に、竹内美智子さんが還暦を迎えられました。

今回は主役の二人が同じかりんとう工房で働いているということもあり、一緒にどんな式にしたいかを

事前に話し合い、二人の希望に合わせた式にアレンジしました。

『好きな曲を聴きながらフラワーアーチを通して入場したい』『司会進行を樋口さん、伊丹さんをお願いしたい』小森さんからは、『お母さんへ

感謝の気持ちを込めて歌を贈りたい』と希望があり、職員と仲間が協力して準備をしました。

当日は一段と綺麗な装いで、仲間が持つフラワーアーチの下をくぐり、たくさんの拍手に迎えられ入場しました。二人の華やかな姿に会場からは歓声があがりました。

樋口さんと伊丹さんは、緊張しながらも進行してくれ、山口幸彦さんのはじめの言葉でスタートしました。二人の生い立ちムービーと共に一緒に働く仲間からのお祝いメッセージが流れました。

次に来賓の方々からの祝辞で学生時代のエピソードなどをお話していただきました。

保護者会長、施設長につづき仲間自治会長の長屋利信さんからのお祝いの言葉もありました。

記念品贈呈では、星野さんから小森さんに、正木さんから竹内さんへ贈られました。

そして、小森さんからご両親へ「20年間ありがとう」の気持ちを込めて、花束が渡されると、ご両親は涙ぐみながら小森さんの成長を実感されている印象でした。

小森さんのご両親、竹内さんのお母様からの言葉があり、それぞれの家庭でこれまでたくさんの愛情をそそがれてきたんだと温かい気持ちになりました。続いて、小森さんからお母様へ「産んでくれてありがとう」の気持ちを込めてAIの“ママへ”を歌いました。素敵な歌の贈り物で、会場は感動に包まれました。



還暦を迎えられた竹内さんからは、お母さんへの感謝の気持ちと「これからもかりんとう作り頑張ります」と大好きな仕事や仲間への想いがあふれるお話をされました。

おしまいに仲間自治会副会長の森亜紗美さん酒井玲奈さんから終わりのあいさつがありました。仲間が仲間のために想って作り上げた式は、とても感動しました。これからも仲間を想うことを大切に、楽しい時間を過ごしてほしいです。





第二いぶき 成人を祝う会

新成人: 田中 絢菜さんと山口 駿さん
たなか あやな やまぐち はやと

第二いぶき 柏原 知恵

今年度、第二いぶきで成人を迎えられたのは田中絢菜さんと山口駿さんです。

田中さんは、普段こらぼの部屋で美濃和紙コースター作りをしています。水入りを担当し、活躍しています。休み時間や散歩の時間は、みんなと楽しくお話して過ごしています。

山口さんは、普段にじの部屋でクラッカー作りで活躍しています。クラッカーの生地が入った袋を振るのが好きで、綺麗に生地を混ぜてくれます。散歩の活動では、仲間や職員と歩いて楽しく過ごしています。

この新しく成人を迎える二人のお祝いの為に、第二いぶき一丸となって準備をしました。

1月10日当日、田中さんは、紫の生地には梅や桜の花が描かれた華やかな振袖姿、山口さんは黒のスーツと赤を基調としたあざやかなネクタイに身を包み、少し緊張した面持ちでみんなの待つ会場に入りました。



くす玉をはじめ、毎年工夫を凝らした演出が会場を盛りあげます。

くす玉。それぞれの紐を引っ張ると、色とりどりの紙吹雪と共に『大人の仲間入り』『おめでとう!!』の垂れ幕が落ちてきて会場は大きな拍手に包まれました。

いつも一緒に過ごしている、にじとこらぼの仲間たちが用意したのは、お祝いのくす玉でした。2人の前に用意され



アトリエといろどりの仲間たちが準備した物は美濃和紙で作ったアルバムです。仕事風景や日常の様子が納められたアルバムを受け取ると、とても嬉しそうに広げていました。今年は仲間たちから、歌のプレゼントをしました。曲はホワイティーンの『キセキ』。歌を歌う人、楽器を鳴らす人など、各部屋で練習してきた成果を発揮し、会場をととても盛り上げました。

そして、恩師の先生方からいただいたお祝いの言葉では、二人の小さい頃や学生時代のたくさんの思い出が語られました。

また生い立ちを紹介するムービー

では、思い出の写真と共に、二人の成長や、色々な人たちとの出会いやその当時のエピソードも紹介されました。改めて、二人がこれまで多くの人たちに囲まれながらここまでできたのだということを感じました。最後に20歳まで育ててくれた両親に感謝の気持ちと共に花束を手渡すと、会場は感動に包まれました。

成人を迎えられた、田中さんと山口さん。これからも一緒に第二いぶきで様々な経験を積み重ね、楽しく過ごしていきましょうね。



ミニフューチャーシティー ミナモのまちづくりラボ

2019年12月22日(日)にモレラぎふで『ミナモのまちづくりラボ』というワークショップをひらきました。これは、小・中学生が仮想の街の中で子どもだけでお店を経営・運営する『ミニフューチャーシティー』というプログラムを応用したもので、大垣のGOCCO.さんと京都のこども未来探究社さんにご協力をいただきました。参加者は50名あまり。いろいろな人がいる楽しさ・面白さを感じる機会になったと思います。いぶきの仲間の様子をお伝えします。

たーぶる 三輪 忠良

現在、いぶきの放課後等デイサービスには小学生から高校生まで合わせて15名のお子さんが在籍しています。その中の一人である高木翔空さんは、特別支援学級に通う中学1年生の男の子です。いぶきの放課後等デイサービスを利用し始めてから2年が経ちます。絵を描くことやダンスをすることが好きで、いぶきでも好きなアニメのキャラクターの絵を描いたり、音楽に合わせて踊ったりして過ごして



用意された木製ブースに分かれて、何をしようか子どもだけで話し合い。

います。一方で、人と上手にコミュニケーションが取れず、自分の思いを一方向的に話したり、逆に自分の思いを上手く伝えられないといった一面があります。そんな高木さんと、今回12月に行われたミナモのまちづくりラボに参加しました。

このイベントに向かう道中、高木さんは会場であるモレラ岐阜に行けることは楽しみにしていましたが、誰が来るのかを心配しており、不安な表情を浮かべていました。あらかじめ5、6人の仕事のグループがつくってあり、午前中は「みらい学校」でした。グループでクイズを作成しますが、話し合いでは緊張から下を向いて他の子と話すことができませんでした。しかし、昼食後「みらいゲーム」に転職してからは、段ボールでゲームを黙々と作り、表情も生き生きとし始めました。同じお店の子たちも高木さんの作っているゲームに興味を持ち、それに対して高木さんがゲームの説明をしたり、道具の貸し借りをしたりして、次第に打ち解けることができて



接客がだんだん板についてきました。

きました。店長からレジを任されてからは、お店の前で手を叩いてお客さんを呼び込んだり、遊びに来た小さい子に優しくゲームの説明をしたり、お客さんがゲームに成功すると拍手して盛り上げたりと、積極的に店番を行っていました。この頃には、同じお店の子ともすっかり打ち解け、談笑する姿やお互いに声を掛け合ってお客さんの対応をする姿が見られました。その後、みんなと談笑する中で高木さ



友だちと一緒に積極的に意思表示。

んが店長になることが決まり、みんなに「がんばろう!」と声を掛けて、最後まで一生懸命頑張っていました。今回のミナモのまちづくりラボで高木さんの新たな姿を見ることが出来ました。自らの意志

で「転職する」という選択ができたことが、自分の思いを出せるようになったきっかけだったように思います。また、同じお店の子たちと仲間意識が芽生え、相手のことを考え協力してお店を盛り上げていくという姿が印象的でした。最後に高木さんの「今度はいつやるの? また来たい!」という言葉が嬉しかったです。

心のバリアフリー
ナビゲーター
恩田聖敬が
おんだ さとし

愛を語る!



vol.2 仕事愛



FC岐阜社長時代、試合時のお客様の『お出迎え・お見送り』を共に実施

今回は仕事における愛について語ってみようと思います。前回、仕事において少なからずの裏切りにあったと書きましたが、それに反してALSの身である私を変わず支えてもらう経験も数多くしました。

私のFC岐阜社長2年目には専属の秘書がいました。私の病状を心配して、私の元所属会社の代表でありFC岐阜の筆頭株主の命を受けて、東京から岐阜に秘書として送り込まれて来ました。彼女は私の新卒同期生で、最初の配属先が同じで、ともに仕事観やサービス業の価値観を作りあげて来た、仕事における私の一番の『戦友』です。彼女を含めた仲間たちと、一丸となって予算を達成した2004年6月30日が、私の仕事への思いの原点です。『仕事はうまくいかないのが前提、だからうまくいったら超楽しい!』その原点を忘れないように、まんまる笑店の創業日を6月30日としました。話を戻しますが、いくら代表からの命だとしても、いきなり東京から岐阜に行く、家も引き払う、今の業務の引き継ぎもある、岐阜での仕事期間も明確に決まってない、誰

でも躊躇して当然です。しかし彼女は、「一緒に仕事する最後のチャンスかもしれない。」と言い、二つ返事で秘書を引き受けてくれたのです。皆様、そんな仕事仲間は居ま



秘書最終日に『これからお互い頑張る!』の誓いの握手

すか? 社長2年目は地獄の日々でした。ALS進行によって歩けなくなって車椅子になり、ろれつがどんどん回らなくなって社員とのコミュニケーションが取れなくなっていきました。その中でも、私の仕事観を知り尽くした彼女が、手足となって私の思い



FC岐阜の職務を離れた後も、友人として一緒に試合観戦

を寸分の狂いなく代弁してくれたおかげで、地獄の中でも前を向くことができました。現在も私は仕事を続けています。

それを可能にしているのは『仕事人恩田聖敬』に対する、数え切れない方々からの『無償の愛』です。新卒で社会に出て16年、片時も変わらず仕事に真摯に向き合ってきた結果、得た『愛』だと誇りに思います。

パストラル
いぶき
藤澤 秀人さん
ふじさわ しゅうと

福祉のお仕事 スタッフインタビュー

いぶき
サテライト
山下 悠さん
やました はるか

いぶきで仲間とともに
悩んだり、笑ったりしながら働く
職員の想いをお届けします。

© Synto Fujisawa



最後の一口は職員に声をかけて、いつも気持ちよく完食している吉迫さん。

重症心身障害の仲間と仕事をしてともに過ごす
らばに4年、仲間が仕事を終えてから帰り、共同生
活をするパストラルで支援員をさせていただき7年
と、いぶきではたらき始めて11年になります。
高校生の頃から毎年いぶきで続いているいぶき
ふれあいまつりのボランティアに参加するようにな
ったことがきっかけでした。仲間と職員の飾らない
あたたかい雰囲気が自分にもあっていて「こんな
仲間たちと一緒に過ごしたい」と自然に思えたこ
とが土台にあると思います。

いぶきで一番笑ったことは？

いぶきふれあいまつりでは、まつりの最後に総踊
りという会場に集まったみんなで手を取り合って
踊るという場面があります。今日はじめて会った人
同士が輪になり、気づくと何故か笑って踊ってし
まっているというエネルギーが溢れているファイナ
レに一度は参加してほしいと思います。

いぶきで一番悲しかったことは？

仲間が何の前触れもなく急にいなく(亡く)なって
しまうこともこの仕事をする中であります。どう受
け止めていいのかが未熟な自分では分からないで

すが、仲間との楽しい時間が大きい分、別れは悲
しいです。

楽しかったエピソードは？

声を掛けても動いてくれない、目を合わせてくれな
いなど「お試し行動」という初めての職員に対して
どれだけ自分のことを知ろうとしてくれているの？
という仲間からの最初のメッセージが向けられる
中、「いこうか」の声にスッと腰を上げて立ち上がっ
てくれた時や仲間から手を握って歩く意思を示して
くれた時など、仲間に気持ちが届いた1年目のこと
はどれも嬉しかったです。

息抜きの方法は？

釣り、スキー、サッカーなど体を動かすことが好き
なので休みの日などは家族と一緒に自分の趣味を
押し付けながら楽しく過ごしています。

仕事の夢またはやってみたいことは、染め、紙づく
り、お菓子作り、野菜やお茶の生産など、福祉らし
からぬ新しいものへ挑戦できる環境がいぶきには
あります。他にはない「あっ」とときめくものづく
りを仲間と一緒に考えていきたいです。



「昨日の夜何食べたの？」と何気ない会話でリビングの雰囲気が温まります。

いぶきさんのある1日



- 8:00 ~ 起床、朝食
- 8:30 ~ 掃除、洗濯、子どもと散歩
- 11:30 ~ 昼食、家族でまったり
- 14:30 ~ 出勤、仲間の帰宅前に風呂など準備・打ち合わせ
- 15:45 ~ 仲間帰宅、入浴支援、洗濯、明日の準備
- 18:00 ~ 夕食 ⇒ 入浴支援
- 20:00 ~ 就寝の準備
- 21:00 ~ 仲間就寝、夜間見回り、トイレ介助、記録、2時間仮眠
- 6:00 ~ 起床、仲間たちの出勤準備
- 7:00 ~ 朝食
- 8:00 ~ 仲間出勤、片付け、記録
- 10:00 ~ 勤務終了
- 11:00 ~ 帰宅、昼食、まったり 子どもとお昼寝

やすしさんのある1日



- 5:45 ~ 起床、出発準備
- 8:20 ~ 出勤
- 8:30 ~ 打ち合わせ
- 10:00 ~ 畑作業
- 13:00 ~ お昼ごはん、仲間と休憩
- 14:00 ~ 室内でお茶作業
- 15:30 ~ 送迎
- 17:00 ~ 記録、明日の準備
- 19:00 ~ 帰宅夜ごはん・お風呂
- 21:00 ~ テレビ、音楽などのんびり過ごす
- 23:00 ~ 就寝

Haruka Yamashita



お茶の葉の中の茎を取り除く作業。みんな集中してもくもくと取り組んでいます。

いぶき2年目の山下悠です。サテライトのファームというチームに所属しています。仲間とともに、茶畑へ行きお茶を育てながら、自然豊かな空気の中でのびのびと働かせてもらっています。

私は障害がある方たちの人生に関わる仕事がしたいと思い福祉を学んできました。いぶきを見学させていただいたとき、仲間の自己選択・意思決定を「待つ姿勢」が現場で感じられ、ぜひいぶきで働きたいと思いました。

いぶきで一番笑ったことは？

自治会の立候補者と推薦者の政見放送用のビデオを撮りました。そのとき、先に推薦者が「〇〇さん推薦します」と話すと、立候補者がそれにつられて「推薦人として頑張りたいです」と宣言していました。それにはお腹がよじれるほど笑いました。

いぶきで一番悲しかったことは？

昨年の夏頃、一人の仲間が入院することになりました。お母さまから、命の危険があることを伝えられ、初めて死というものを感じました。幸い、今その仲間は退院して元気に家で過ごしていますが、そのときはとてもショックでした。

楽しかったエピソードは？

年に一度の小旅行です。みんなでセントレアに行きました。私が雨女のせいで、飛行機は見れなかったのですが…。でも普段なかなか乗らない電車に乗ったり、少しリッチなホテルバイキングを食べたりと、みんなで楽しく過ごせた思い出になっています。

息抜きの方法は？

歌うことです。同期とすごく仲がいいので、よくカラオケに行って何時間も歌っています。あと通勤の帰りに車の中で熱唱してスッキリしています。

仕事の夢ややってみたいことは？

私は今大人のみんなと一緒に仕事をしていますが、仕事をしながらふと「みんなはどんな子ども時代を過ごしてきたんだろう…」と思うときがあります。みんなの子ども時代に会いに行くことはできませんが、今を生きてる子どもたちと関わることをやってみたいな、と思っています。



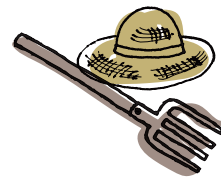
茶葉に入っていた枝を仲間が見つけてくれました。



仲間のすがた

塩谷 良輔さん

えんやりようすけ



ごんのしま作業所 竹腰 龍太



長靴を履いての畑仕事も板についてきました。

塩谷さんの第一印象は、「本当に笑顔が素敵な人」でした。塩谷さんの姿を想像すると、いつも笑顔で目が細くなり、嬉しそうに「あー」と拍手をしながら褒めてもらおうと近づいてくる姿が目につきます。いろんな人と関わりながら、仕事をする中で輝いている姿が増えてきています。そんな塩谷さんの姿をお伝えします。今から2年前、部屋が騒がしいのが苦手で、いつも外で横になっていた塩谷さん。部屋での仕事

よりも、事業所の駐車場で畑に使う土づくりや玉ねぎの袋入れをやっていました。部屋にいる時は陰しい顔でいることが多かったです。そこで、塩谷さんが外にいるときには無理に部屋に誘うのではなく、願いに寄り添い、やりとりを大事にしていました。また、車で出かけて畑へ行くこともありましたが、塩谷さんは車からは降りず、車の中でみんなの様子を眺めていました。ある日、田んぼの藁を運ぶ作業を車の中で見ていた塩谷さんに、「塩谷さん、藁運んで〜」とスタッフが声をかけると、恥ずかしそうに車から降り、藁を1束だけ運び、小走りで車に戻って行きました。自分の気持ちを分かってもらえる、好きな人のために、初めて畑作業ができた日でした。その後も畑での仕事が少しずつ出来るようになって



玉ねぎ並べ、天気の良い日は気持ちがいいです。

いきました。ある日、大根の収穫のために畑へ行きました。この頃には車から降りられるようになっていましたが、車から降りるけれども、作

新しい仲間3人がいびきでの生活をスタートしました。

4月3日にいびきで仲間の入社式を行いました。今年の新しい仲間は3名で全員西部事業部に入ります。皆さんスーツに身を包んで仲間自治会と所属する部屋の仲間たちに囲まれて新たな生活をスタートしました。

仲間の代表からは「僕も緊張したけど慣れていくから頑張ってください」と声をかけられた後に、新しい仲間がそれぞれみんなの前で自己紹介をして、仕事を頑張りますと挨拶をしていました。新しいグループに早く慣れて、みんなと一緒にいろいろなことを体験しておもいきり活動してほしいと思っています。





「これ抜いてもいい？」スタッフと一緒に収穫します。

業はせずにみんなの様子を見ていることが多かったです。そんな中、畑に植えてある大根に興味を示した日がありました。これまでは大根が折れてしまうからとスタッフが抜いていましたが、この日は塩谷さんに大根の収穫を任せると案の定、ポキッと半分に折れてしまいました。残念ながら商品にはなりませんでしたが、折れた大根を塩谷さんの家に持って帰ってもらいました。家族からも褒められたことが自信になり、ますます仕事を頑張るようになっていきました。昨年の4月頃には一人で外に出て行くことはなく、部屋にいる時間も増えていきました。仕事以外にもみんなの役に立つお手伝い、ホワイトボードの日付を書くこと、携帯電話と鍵をセットすること、お弁当を運ぶことなどをやっています。やり終えたら出来たよと笑顔で褒めてもらいに行く

ことも忘れずに。最近では野菜の配達や販売、ショップへの納品などを用意からスタッフと一緒にやり、重い荷物でも車に運んでくれます。塩谷さんが車に乗ることが好きだからというのがありますが、「これは自分の仕事だ」と誇りを持っているのだと思います。

塩谷さんは自分の思いを伝える手段が「あー」や「えー」など言葉は少ないですが、人と関わる

ことは大好きな人です。初めて車から降りて畑で仕事ができるのも、「好きな人のために頑張ろう」と思えたからだと思います。不安なことでも、人を支えにして頑張ろうとする姿はこれからも



送迎車の鍵と携帯をセット、みんなから頼りにされています。

たくさん見せてくれるのではないのでしょうか。いろんな人と関わりながら、人間関係も広がっていき、やり取りを通してできることが増え、みんなから頼りにされ、ごんのしまカンパニー（グループ名称）には欠かすことのできない人になっています。これからも、たくさん笑い、素敵な笑顔で一緒に仕事を頑張っていきましょう。



施設長の森に紹介され、ひとりずつ自己紹介をしました。



新年度から一緒に活動をするムスカリのメンバーと一緒に。



新商品のご紹介 戦国武将かりんとう

いぶき 山本 友美

NHK大河ドラマ「麒麟がくる」にちなんで、戦国武将ゆかりの地、岐阜をPRする商品として、『戦国武将かりんとう』を発売しました。

昨年、岐阜にゆかりのある戦国武将、織田信長、明智光秀、斎藤道三の商品募集があり、いぶきでも人気の高いかりんとうを使い商品化をし申請をして、岐阜市推奨商品として認定されました。

パッケージは、甲冑をイメージしたツヤのある鮮やかな色に、ラベルにはそれぞれの武将の家紋を入れました。製造しているのは、かりんとうと招き猫マドレーヌ製造を担ういぶきゆめひろの仲間たちです。

岐阜県産小麦粉を使用し、米油でカラッと揚げた歯ごたえのあるやさしい甘さが特徴で、着色料や

保存料など添加物を一切使わないこともこだわりです。

いぶきのかりんとうは、1995年に取組みのひとつとしてスタートしました。徐々に商品として定着してきたので、2005年に製菓専用の作業室をつくりました。はじまりから25年、常に改良を重ね、試行錯誤しながらいぶきと共に成長してきました。

仲間は、製造の全て 3月2日発行の福祉新聞に掲載されました。の工程を担当していて、毎日毎日丁寧に取り組んでいます。仲間の中には大河ドラマを観ている方も多く、戦国武将かりんとうとして商品化されたことをとても喜んでくれています。私は、デザインや広報を担当しています。これからも、仲間を笑顔にしたいという思いをもちつづけ、いぶきの商品の良さやストーリーを丁寧に伝えていきたいと思っています。



織田 信長



明智 光秀



斎藤 道三



黒糖

国産黒砂糖を使用した定番の味です。



紫芋

紫芋の風味豊かなやさしい味です。



抹茶

国産抹茶茶使用しました、苦みと甘みの絶妙バランス。



販売は、ねこの約束と岐阜公園歴史博物館大河ドラマ館にて。お電話での注文も承っております。

●ねこの約束 JR岐阜駅 アクティブG2F

営業時間10:00~19:00 TEL.058-265-8909



NEW いぶき福祉会のホームページを リニューアルしました。

3月22日より法人ホームページ「いぶきの小窓」のデザインを一新しました。
カテゴリを整理し、紹介の文章も一新してより見やすく工夫しました。
また、TOPページには随時お知らせが掲載され、日々の動きやイベントの案内など、
旬な情報がすぐにみられるようになりました。今後は多様な記事を掲載していきたい
と思っていますので一度のぞいて下さい。
みなさまのご意見ご感想なども、お気軽におよせください。



見たいページをカテゴリから選びます。

ホームページアドレス
QRコードからも
アクセスできます！

<http://www.ibuki-komado.com/>

お知らせページ



日々の活動の様子や、情報発信の場として
どんどん投稿していきます。
ニュース、メディア掲載、応援メッセージ、
採用情報、レポートのカテゴリごとに分か
れていて、観覧もしやすくなっています。



お問い合わせページ



どのページからもお問い合わせができるよう
に、タブがついています。

いぶきのネットショップ



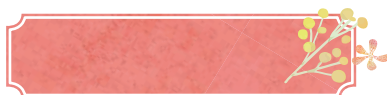
いぶきの商品がインターネットでご購入
いただけます。



2020年度 新人職員紹介

新しく仲間入りした6名の職員です。
どうぞよろしくお願いいたします。

①趣味 ②夢 ③自己PR





前いぶき後援会長、高橋弦さんを偲ぶ

竹内章郎(いぶき福祉会評議員)



第24回いぶきふれあいまつりにて

昨年12月19日の午後7時過ぎ、2011年6月から2017年5月までいぶき福祉会後援会長を務められた高橋弦さんが、74歳で亡く

なられました。その当日お昼まで元気に奥様とも話されていたのですが、ここ数年、抗癌剤治療で抑えていた食道癌の進行もあって、昼食時の誤嚥が元で呼吸困難となったそうです。ご縁のあった私は、その突然のお別れの間をご家族と共にして一緒にお見送りしました。ご冥福を心からお祈りいたします。

ビスマルクの社会保険政策の批判的検討を焦点とした『ドイツ社会保障成立史』(梓書店)という著作のある高橋さんは、社会福祉を含む社会保障に造詣が深く最適任のいぶき後援会長でしたが、総会などにはもちろん、事務局の小さな会議にも欠かさず出席して若い職員の発言に熱心に耳を傾けるだけでなく、参加者皆が気持ちよく会議に臨める雰囲気作りにも取り組んでくれました。そして後援会ニュースやいぶき祭りでの高橋さんの発言は、筋の通った論理的なものであると同時に、社会福祉に関わる多くの人を励ますものでした。

周囲を気遣いつつも芯の通った発言と行動を示す高橋さんの姿を、私は務め先の岐阜大学地域科学部で、高橋学部長の下で副学部長だった際にも身近で見てきました。高橋さんは、障がいをもつ仲間を含む皆々への暖かい心をお持ち

ちでしたが、この暖かい心には冷静で科学的な高橋さんの社会福祉・社会保障論が息づいていました。ですから、資本主義の市場経済の維持に必須でありながらも、継子扱いされややもすれば粗略に扱われがちな社会福祉について、高橋さんはその根本的変革に繋がるような日常的で地道な改革を、障がいをもつ仲間と熱心に向き合ういぶきの職員の日々の姿に重ねて常に考えておられました。

高橋さんは、日本の障がい者福祉が公的保障だけではまともなものにはならないことを、従ってまた、社会福祉法人における後援会組織の重要性を熟知されていましたから、いぶきの後援会の抜本的向上のために後援会長として為すべきことは何かということも問い続けておられたように思います。また、ケアホームへの補助金制度が重度の障がいをもつ仲間を想定したものではなく、昔ながらの通勤寮的な補助金体系に留まっていることなどについて私と話し合った時も、「夜間の大変さをもっと世間に知らせねば…」と言われつつ、同時にいぶきの職員の待遇や労働条件の一層の向上の必要性も強調されていました。

体調が良ければ、社会福祉法人いぶき福祉会の中枢メンバーとしてこれからも活躍して頂きたかったと今も思います。私たちは、高橋さんが支えてくれたいぶきの善さをもっと発展させたいと思っています。

どうか今後も天上からいぶきを見守ってくださいませ。高橋さん、いぶきへの尽力に心から感謝しております。

本当にありがとうございました。



いぶきふれあいまつり開催中止のお知らせ

平素はいぶき福祉会ならびにいぶきファミリーにご理解ご協力いただき誠にありがとうございます。

さて、コロナウイルスの感染拡大を防止するため、第29回いぶきふれあいまつりの開催を見送ることとなりました。時期をずらしての開催も検討させて頂きましたが、現在のところ今後

の目途が立たないため、やむを得ず中止とさせて頂きます。開催を楽しみにして頂いていた方も大勢いらっしゃると思いますが、地域・会員の皆様との交流等は今後のファミリーの各種活動の中で代替できればと思っております。誠に申し訳ございませんが、ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。



情報掲示板

いぶき日和

題:仲良くできたらいいな その3
作・絵:川瀬悟

いぶきでの何気ない日々の営みのなかに、私たちはたくさんの小さな感動を感じています。そんな、いぶきの日常を職員の4コマ作成チームでワイワイ話し合っつつついています。気軽に、ほっこりした気分でご覧いただくことを願っています。



いぶきファミリー賛助会員への 新規加入・更新のお願い



年会費 個人:1口 2,000円 団体:1口 10,000円

ご入金 ①クレジットカード (更新手続きがいりません)
<http://kessai.canpan.info/org/ibuki/>

②郵便振替:00840=3=91146
加入者名/いぶきファミリー

③直接窓口:いぶき福祉会
ねこの約束(JR岐阜駅)



▲クレジット決済窓口

お問合せ いぶきファミリー事務局

TEL 058-233-7445

FAX 058-232-9140

E-mail iibuki.m@ibuki-komado.com

(タイトルに賛助会員と入れて下さい)

編集後記 林 守男

アトポスというギリシャ語がある。英語で言うとストレンジャー。「奇妙な、見知らぬ人」という意味である。この非常に差別的な言葉が、現代病「アトピー性皮膚炎」の語源である。新型コロナウィルス問題がまことにまびしいが、これも原因・感染ルート・治療法がストレンジであるがゆえに不安を増大させている。

私たちは、得体のしれないものにほとんど動物的恐怖心を抱く。それがいわれのない差別・偏見を生む土壌となることを、歴史を通じて学んできた。

障害のある人の、権利保障・権利改革を目指してきた私たちは、襟を正してこの問題に対峙していかなければならないと思う。